

まえかわ かつのり 前川 勝規さん

現在は勝山地区に猫と暮らす前川さんは、札幌市出身の44歳。鍼灸師の資格を得て、道南のせたな町に住むまで札幌市以外を知らずに育ちました。近くのホームセンターまで車で1時間という環境に最初は戸惑ったものの、しだいに慣れて生活を楽しめるように。

「都会は、便利で貧乏な生活。店も近くにあるけれど、いつも必要なわけじゃない。人も多く賑やかだけれど、夜も騒がしい」と、語る前川さん。せたな町を離れ、釧路市、網走市と住まいを移しながらも、釣りや家庭菜園、アウトドアを楽しみながら生活できる環境を大切にしてきました。

◆なぜ地域おこし協力隊に応募を？

網走市で鍼灸師としての仕事をしていました時、偶然インターネットで募集を知り、軽い気持ちで応募しました。

以前からあけと湖に何度も釣りにきており、ワカサギ釣り大会の常連です。川でヤマメ釣りも楽しみました。

◆ 置戸で生活した第一印象は？

地域の皆さんとの温かさを感じています。引越のときも近所の方や役場の方が手伝ってくれました。

◆ あけと勝山温泉ゆうゆでのお仕事は？

これまで接客業をしたことがなく、与えられた仕事をこなすことに一生懸命です。町内外のお客様から「オープンを待っていたよ！」の声が多く、驚きと嬉しさを感じています。

お客様から「ありがとうございます」と言っていたら嬉しいです。将来的には常にお客様が満足していただけるサービスを、当たり前に提供することを目標としています。

◆ 現在の生活、これからの活動などは？

オホーツク地域全般を見て歩き、情報収集中です。置戸を含め、この地域に何があり、どんな活性化ができるのか、どんな仕事ができるのかを見極めたいです。まずは「ゆうゆ」を第一と考え、協力隊として何ができるかは、これからと思っていますので、よろしくお願いします。

これまでの仕事やライフスタイルも正反対の二人が選択した、置戸町での暮らし。隊員としての活動は、これからがスタートです。

二人が働いている「あけと勝山温泉ゆうゆ」では、5月からレストランもオープン。「毎月26日は“ふろの日”。お得なサービスデーですので、ぜひお越しください」とのことでした。

まえだ そう 前田 創さん

現在は勝山地区に一人暮らしの前田さんは、置戸町出身の33歳。服飾が好きで都会に憧れ、札幌市内の大学に進学しました。在学中に朝日新聞社報道部でのアルバイトが面白く、熱中しました。

その後、パチンコチェーン店でアルバイトを始めました。仕事熱心な勤務を認められ、正社員となり、いくつかの転勤を繰り返すうち、道外へ移り住みました。

「仕事が充実していないと生活もだらしなくなる」と、仕事を第一に、常に新しいサービスの提供を考えながらの忙しい日々を送っていました。

◆なぜ地域おこし協力隊に応募を？

仕事が不規則で、体調不良になるときもあったため、リターンの機会を考えていました。両親にも置戸に帰りたいと、話をしていました。そんな中、父から協力隊募集の話を聞き、応募しました。

◆ 置戸にリターン後、心境は？

地元の友人や地域の皆さんの歓迎ムードが嬉しく、人の温かさを実感しました。生活も規則正しくなったので、以前は休みの日に何時間寝ても足りない状態だったのが、朝になると自然に目が覚め、健康的に過ごしています。

◆ あけと勝山温泉ゆうゆでのお仕事は？

何かしなければならないと、焦っていた時期もありましたが、周りが求めることにしっかり答え、これまでの経験を活かしたいと思っています。

ゆうゆのファンを作ることが大切だと考えています。「接客が良いスタッフがいる、このスタッフに会うために、ここに来た」と、思っていただける接客が目標です。

◆ 現在の生活、これからの活動などは？

今は「ゆうゆ」を最優先。客足が落ち着いてからが、協力隊の出番だと考えています。そのほかの活動もこれからですが、将来を見据え、じっくりと考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。